

放射線健康リスク科学人材養成プログラム（文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」）

第一回事業推進委員会 議事録

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木） 13:00 - 16:00

出席者：下川 功、永山 雄二、松田 尚樹、工藤 崇、西 弘大、宇野 直輝、安武 亨、浦田 芳重、丸山 洋也（長崎大）

粟井 和夫、松浦 伸也（広島大）

石川 徹夫、緑川 早苗（福島県立医大）

1. 開会挨拶 下川 功（事業責任者）

・「全国国立大学医学部長会議における確認事項に、「医学教育の中で放射線リスク科学教育を将来必修化することを目的とする。」とありこの方針に沿って事業を進めていきたい。」とこのプログラムの意義について説明があった。

2. 事業の概要（資料 1） 浦田 芳重（専任助教）

・各大学からの出席者の自己紹介があった。
・資料 1 についてこのプログラムの概要の説明があった

3. 各大学の状況紹介

（1）長崎大（参考 1, 2） 工藤 崇

・現在行っている環境因子系の座学・実習について説明があった。来年度は前期に 3 年次 90 分授業（資料 1 と 2）が、2 年次 60 分授業が後期に行われ 60 分授業の内容については検討中であり、放射線物理、生物、医療について必要な知識獲得と災害への対応力をつけるための実習に力を入れていると説明があった。追加で松田教授から平和教育も含めた 1 年次の学部モジュール（参考 3）も行っているとの説明があった。

（2）広島大（参考 4） 粟井 和夫

・来年度のシラバス内容について参考 4 に沿って説明があった。座学中心で、実習については 170 名と多人数のため最終日に全体討論を行うのみとした。なお暫定案として詳細は検討中だが、夏季集中セミナーを行い、その一部で放射線災害実習を行う予定、さらにこのセミナーは他大学にも案内予定との説明があった。最後に全国の大学に配布する目的で DVD 作成を検討中であり、この会で内容について検討してもらいたいと提案があった。

（3）福島医大（参考 5） 石川 徹夫

・参考資料 5 に沿って 1. 長崎大との共同大学院、2. 医学部学生教育と 3. 放射線災害医療セミナーについて詳細な説明があった。災害復帰の経験に基づいた講義・実習内容と講義方法について学外の一般者も対象に取り組んでいるとの事。今回の災害経験から試料中にある「原子力災害サイクル」を構築し放射線災害医療に必要なものは何かあぶり出し、多様な受講者に合わせた講義・実習計画を作り上げた。また教育効果を評価し、受けた講義内容を忘れさせないため e-learning を作成し活用しているとのことであった。

4. 平成 28 年度事業計画（資料 4, 5） 浦田 芳重

・資料 4 の工程表に沿って本年度計画の達成状況については、組織体制、広報、コンテンツなどの進行状況からほぼ達成できるとの説明があった。また筑波大で進行中の課題解決型プログラム「放射線災害の全時相に対応できる人材育成」のシンポジウム（平成 29 年 2 月 11 日、つくば市）に浦田がシンポジストとして参加する事を報告した。この際、各大学のシラバス（授業計画）を紹介したいと松田より提案があり、了承された。またプロジェクトリーダーの下川教授より全国国立大学医学部長会議の方針では、本プログラム最終年の 32 年度には放射線リスク科学教育が必修化を目指しており、本プロジェクトで作成された DVD などの教育プログラムが使用されるよう推進して行きたいとの話があった。

5. 平成 29 年度事業計画（資料 6）

全体討論（進行：松田 尚樹）

・全体計画（シンポジウム開催、外部評価）、・個別計画（各大学の新たな取り組みと課題、講師・学生交流）について、資料 6 に沿って文科省からのコメント、所見について対応策の説明があった。これを踏まえ平成 29 年度の事業計画について意見交換を行った。

* インテンシブコース

人数的には 25 名が限界ではないか。また他（近隣）大学との人的交流・協力も進めていくとの確認を行った。

* 教育効果の確認方法

1. プレ・ポストテストで評価する。
2. 卒後に学生の就職先や受けた教育プログラムがどのように役立っているか調査するよう検討している。
3. 自己評価のためのルーブリック表に教員側からの評価を合わせれば教育前後の評価ができるのではないか。

これから長期的な評価制度が必要であり検討を続けていくことを確認した。

* カリキュラムのブラッシュアップ

- 3 大学のコンテンツをグループウェアで共有し 32 年度をめどに必修化に合わせて完成を目指して進めていくことを確認した。

* 外部評価委員の選定については各大学より 2 人ほど挙げていただき浦田へ知らせる。

* 資料にはないがシンポジウムについて日程・内容を検討し早い時期に各大学にお知らせする。

* 事業拡大については、国立大学医学部長会議放射線リスク教育ワーキンググループの方針にのっとり、当事業を進行させる。

* 教育用 DVD 作成について、広島大学より説明があった。作成予定の 8 コマを核として最大 15 コマ（単位認定可能なことを考慮）拡張版分を各大学協力のもと内容を吟味しながら作成する。その際ブラックボードの使用も検討する。この項目については来年度講義を行った後、各大学より資料を集め共通のコンテンツを作成する。期限は来年度末とすると確認した。

* 全国各大学の教育内容調査と事業への意見聴取、要望を集める。浦田が情報収集と報告を行う。

* 第 49 回日本医学教育学会大会（8 月 18-19 日、札幌市）において、シンポジウム「医学教育における放射線リスク科学教育の必須化」（シンポジスト：細井（東北大）、神田（放医研）、大津留（福島医大）、佐々木（文科省））が採択され、下川及び座長として安武、松田が参加予定である。

* 平成 28 年度予算執行に余裕が見込まれることから、次年度に必要な消耗品を中心に広島大、福島医大より要望を出していただきたい。

事務連絡

来年度分も考慮しながら必要な経費について事務員間で情報の収集配信を行う。

〈資料〉

資料 1 事業概要

資料 2 推進委員会所見

資料 3 推進委員会コメント

資料 4 工程表

資料 5 平成 28 年度事業計画

資料 6 平成 29 年度事業計画

参考 1 環境因子系実習テキスト（平成 20 年版）

参考 2 環境因子系実習テキスト（平成 28 年版）

参考 3 長崎大シラバス（学部モジュール）

参考 4 広島大学における事業概要

参考5 福島県立医大における事業概要